

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第6号（通算89号）
令和3年10月27日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



瑞穂学園

10月8日（金）学園交通安全見守り活動

秋と言えば…

小中一貫教育推進課 指導主事 松原 康之

過ぎしやすい秋を迎えました。そこで、秋に関わる数を一つ紹介します。「1億7,678万」突然こんな大きな数字を言われても…という声も聞こえてきそうです。何の数字かピンときた方は、「秋といえば…」と問われた時に、きっと「読書」と答える方でしょう。正解は、全国の公立小学校図書館の蔵書冊数(令和元年度)です。1校あたり約9,400冊の蔵書があることとなります。全国の公立中学校は、1億97万冊で1校あたりの蔵書は、約11,000冊となります。もちろん、三条市立学校の学校図書館にも多くの蔵書があります。宝の山と言えます。

先日、生徒指導・学校運営訪問の際、見学させていただいた大島小学校の図書館は、まるでカフェのようにおしゃれな図書館でした。読書空間としての学校図書館を見直してみることで、子どもの利用率が大きく変わってきます。季節の掲示物や本の置き方、机の配置、昼の間を設ける等ちょっとした工夫で子どもにとって心が整う、居心地のよい場所に変えることができます。

子どもの読書への意欲を高めていく工夫も大切です。例えば、東京子ども図書館編「改訂新版私たちの選んだ子どもの本」等を参考にして、自校の子どもに読んでほしい100冊を選び、読破した子どもを表彰するのはいかがでしょうか。また、ちょっとした隙間の時間でも本を取り出して読書ができるように、図書館から借りた本を入れた本袋を机の脇にかけておく工夫もできそうです。既に実践されている学校もあるようです。実践の広がり期待します。

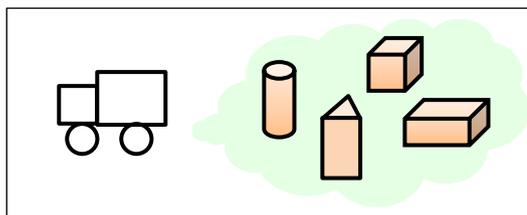
本を読むことにより脳の血流量が増えることが脳科学の研究で明らかになっています。授業前のウォーミングアップにはもってこいです。これまでの全国学力・学習状況調査でも、読書と学力には相関が認められています。読書の秋です。ぜひ学校図書館を活用して、本を読む機会を増やし、子どもの心と学力を鍛えていきませんか。

三条学園

三条市重点教科(算数・数学)研修で学び合い

三条市では、市独自に重点教科を決めて、学力向上に資する研修に取り組んでいます。当面の重点教科は、算数・数学、外国語（英語）です。今月 12 日に、三条学園で算数・数学の授業実践研修が行われました。16 人という多くの教職員が参加して学び合いました。

公開授業は上林小学校で、青木萌子先生が 1 年「かたち」で行いました。最初に先生が「この絵は何でしょう?」「この絵のここは何を使ってかいたでしょう?」とクイズを出すと、子どもたちは「車」「トラック」「タイヤは“まるころさん”のまる」などと答えました。次に先生が「今日は自分で形を写し取ってかいた絵をクイズにして班で出し合いませんか」と提案すると、子どもたちは「やる!」と意欲を示し、とても集中して学習問題に取り組みました。協議会では、子どもの集中力と発想の豊かさが話題になりました。



注) “まるころさん”は円柱の学級での呼び名



かいた絵がどの立体のどの形を使ったかクイズを出し合いました

参観した教職員が授業を振り返ってグループで協議をしました



しただの郷学園

しただの郷学園では、小学校 5 校連合の宿泊体験学習を通して児童同士の友情を深め、下田中学校への円滑な入学につなげています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5 年生自然体験学習、6 年生修学旅行を 10 月に延期して実施しました。三密回避の制約がある中でも学校を超えて交流し、学園の絆を深めました。

5 年生自然体験学習 10 月 6 日・7 日

国立妙高青少年自然の家での自然体験学習に、5 年生児童 72 人全員、教職員 12 人の総勢 84 人が参加しました。

1 日目は、自然オリエンテーリングでグループ別にチェックポイントを回ったり、キャンドルセレモニーでスタンプやダンスをしたりしながら交流を深めました。

2 日目は、自然クラフトの「森の壁掛け」作りに取り組み、思い思いの作品を仕上げました。最後に学園の仲間と記念写真を撮影し、自然の家を後にしました。



6 年生修学旅行 10 月 8 日・9 日



5 校の 6 年生 66 人全員が参加しました。フェリーで佐渡に到着し、「朱鷺の森公園」に移動するバスの車窓から見たのは、4 羽の野生の朱鷺! その後、学校混合で 5 つのコースに分散し、たらい舟やシーカヤックを体験したり、「千石船展示館」や「きらりうむ佐渡」を見学したりしながら、佐渡の自然や伝統、文化を学びました。

2 日目は、佐渡金山の見学後、「西三川ゴールドパーク」で砂金採りに挑戦しました。

様々な体験を通してお互いを知り、友情を深めました。



不登校児童生徒への対応力向上研修（第1回：8月24日、第2回：9月21日実施）



三条市教育委員会の葛綿スクールソーシャルワーカーを講師として、不登校の予防・初期対応、関係機関との連携の在り方について、2回に渡って学びました。

第1回では、カンファレンスシートの作成が、児童生徒本人の見直しや、支援のポイントの絞りこみにつながることを学びました。

参加者からは、「カンファレンスシートをもとにしたケース会議は、話しやすくて有効だと思った。」「不登校児童生徒について見えにくいことなどを、カンファレンスシートの作成を通して見直すことができると思った。」等の感想が寄せられました。また、相談援助の基本として「バイスティックの7原則」についての説明や、実際の指導場面で意識するポイントを明確にするなど、指導経験の浅い受講者にとって有益な内容になりました。

第2回では、希望者が持参した事例（カンファレンスシート）をもとに、外部機関とのつなげ方や、児童生徒とその家族との関わり方など、グループワークで検討しました。

参加者からは「実際にどう対応するか、担任と煮詰まっていたので、希望が見えた。」「他の先生方の事例を聞くことが、自身の経験不足の解消につながると感じた。」等の感想が寄せられました。

また、事例検討する際の視点や家族支援のポイントを講師から分かりやすくまとめがありました。

相談援助の基本「バイスティックの7原則」

- 1 個別化の原則（同じ問題は存在しない）
- 2 意図的な感情表現の原則（感情表現の自由を認める）
- 3 統制された情緒関与の原則（事例対象者に呑み込まれないようにする）
- 4 受容の原則（頭から否定せず、ありのままを受け入れる）
- 5 非審判的態度の原則（支援者の尺度で善悪を判じない）
- 6 自己決定の原則（自らの行動を決定する力の尊重と力を引き出す援助）
- 7 秘密保持の原則（「個人情報保護」対象者を不安にさせていないか）

ICT教育研修会(10月11日) 一ノ木戸小学校 小学4年理科「自然の中の水」

今年度3回目のICT機器を用いた授業研修会を行いました。主に三条市授業スタンダードの「スタートラーニング」「対話」の場面でクロームブックを活用し、その有効性等の協議を行いました。

<スタートラーニングにおいて>



フォームズを利用した前時の確認問題に回答して送信します。



回答の一覧を示しながら、正答率の低い問題について解説します。

参加者の声

- ・フォームズを活用したスタートラーニングをどのように活用しているのか、また子どもたちの様子が分かり、自分の授業づくりに活用できそうと思った。
- ・理科の授業におけるフォームズの具体的な場面での活用法が分かってよかった。

<対話において>



自分の考えをワークシートに記述後にジャムボードを用いてグループで話し合います。



グループの考えについてプロジェクトを利用して共有し、全体で検討します。

参加者の声

- ・今後のジャムボードの活用について研修を深めることができた。低中高学年の発達段階に応じた活用方法について一定の方向を見通すことができた。
- ・ジャムボードがホワイトボードに勝る点は何かを中心に、クロームブックを使う必要性や今後の可能性を考える上で、とても有意義な会となった。

クロームブックの具体的な活用方法や有効性についての理解を深めるとともに、「まずは使ってみることが大切」ということが共有されました。

